館長のガラストーク

■堀口華江さんの茶道具と三浦和さんの立体作品

堀口さんの皆具「雪どけ」の印象的な赤色は、通常の金赤やセレン赤でなく、セレン赤の透明度を少なくしながら調整したということで、展示室に入った時に、真っ先に目に飛び込んでくる程、鮮烈です。また、水指と茶碗の外側には、氷のかけらのようなガラス片が張り付けてあって、不思議な触感を示しています。「ニース」のシリーズでは、細かく砕いた3、4種類の青の顔料を色むらができるように配置して透明ガラスで挟み込み成形したということで、地中海を暗示する微妙な青のグラデーションが実現されています。「茶入れ」では金箔や銀泊、色ガラスの小粒などを素地に取り込むことで、光を散乱させ、微妙な肌合いを持つ器胎に仕上げています。

このように、2009年の秀桜基金による世界周遊後の堀口さんは、茶道具のような日本の伝統工芸の世界に新たな息吹を吹き込もうとしているように見えます。

当館のガラス工房を活動拠点として制作を行っている三浦さんは、ガラスのかたまりが作り出す柔らかな輪郭線と、シンプルな色の表出を特徴としてきました。これは2010年に岡山県美展で県知事賞を獲得した「めぶきのうつわ」や今回の出品作でも変わっていませんが、新作の「しずくのかたち」では少しアプローチが異なっています。

一つは色の対比です。この作品では素地の内側の若草色をした部分を紫色のガラスが取り巻いていて、前後左右、上下とさまざまに視点を変えてみた時に、ガラスの中の色の見え方が千変万化するのです。形態の変化もあります。これまでは、一つのかたまりのようなアプローチが多かったのですが、今回は極端に上の部分を細くすることで、視点移動による内部の見え方が激しく変化します。また、胴部の一部を平らに研磨することで見え方が一層変化に富んだものになっています。

これらの変化によって、ガラス作品の中を透過し、屈折し、反射する光が限りなく変容し、ガラスアートとしての存在感が格段に増しているのです。

堀口　華江
皆具「雪どけ」

堀口　華江「ニース」セット
水指、茶碗、棗

三浦　和「ひこばえのうつわ」
「かどのない四角」

三浦　和
「しずくのかたち」

妖精の森ガラス美術館　館 長　畠山　耕造

展覧会情報 現代ガラス5人展“変幻自在”−岡山の新しい風− 2015年4月1日(水)〜2015年7月13日(月)

お問い合せ先　妖精の森ガラス美術館　電話（0868）44−7888

鏡野町地域情報通信施設整備運営事業の概要 No.27

告知放送サービスにご加入のみなさまへ

以前からみなさまに告知放送受信機の電源を切らないようにお願いをしていますが、何等かの事情によりコンセント及び電池を外して電源を切られている場合には、次の期間について必ず電源を入れておいてください。この期間に各ご家庭の告知放送受信機に設定を行う信号を送ります。ご協力をお願いいたします。

作業実施期間：6月22日(月)〜6月26日(金)

○お問い合せ先
鏡野町有線テレビ
電話(0868)52−2213

平成27年度地域密着型介護保険事業所開設希望事業者の募集について

鏡野町第6期介護保険事業計画に基づき、平成27年度に整備を予定している地域密着型介護保険事業所(小規模多機能型居宅介護事業所)の開設を希望する事業者を募集します。

○募集期間　6月1日(月)〜6月26日(金)

○お問い合せ先
鏡野町保健福祉課　介護保険係
電話(0868)54−2986

※詳細は鏡野町ホームページに掲載しています。